

令和4年度第1学期終業式 校長講話

今日で1学期が終了しますが、振り返ってみていかがでしたか？

昨年度に比べると、授業や行事で皆さんがかんばったり活躍する姿を多く見ることができてうれしく思います。1学期では、特に体育祭での躍動は今でも思い出すとわくわくします。

ところで、先日私は本校の野球部の夏の大会を観戦しに行かせてもらい完封勝利に元気をもらいました。昨日は観戦できなかったのですが、またの勝利！ここまで毎日地道な努力を重ねてきた選手の皆さんに万雷の拍手を送りたいと思います。

高校野球といえば、先月の朝日新聞に夏の大会の特集記事の中で、前日本ハム監督で現侍ジャパン監督の栗山英樹さんが東京創価高校3年生の試合を振り返ってこんなことを書いています。

『なぜ、あの時泣いてしまったのか。4回戦都立東大和高校との試合で、エースだった私は、5回か6回でマウンドを降り、ショートに移りました。悔しくて、申し訳なくて、情けなくて、前が見えませんでした。涙で。まだ試合は終わってない。でも、泣いた時点で自分のなかで終わらせてしまっていた。後で気づいたことですが、能力とか才能とか、そんなものは実は大したことがなくて、いっぱい失敗しても、最後までやりきることのなんと大切なことか…』そして、高校生、特に3年生の皆さんに対して次のようなメッセージを贈っています。

『コロナ禍は苦しかった、なんて言葉で済まされないくらい大変だったでしょう。人と普通に接することができない、懸命に追いかけた夢をあきらめなければならないこともあったでしょう。ただ、こうも言えるのではないのでしょうか。皆さんは人と接することの重要性を特に感じているはずです。普通に人と話したり協力することが、いかに大事なことか。もしかすると、人生にとってすごく貴重な3年間だったのかもしれないと、思うのです。』そして、『艱難辛苦（かんなんしんく）なくして人は成長しません。』と締めています。

艱難辛苦なくして成長しない、と聞いて思い出した英語のことわざがあります。それは、“No pain, no gain.”（痛みなくして得るものなし＝虎穴に入らずんば虎子を得ず）です。韻を踏んでいて覚えやすいので、忘れないでくださいね。

本校の今年3月の卒業式の式歌「3月9日」を歌った今をときめくバンド「レミオロレン」の藤巻亮太さんは、劣等感で悩み多き苦しい高校生活を送ったそうです。しかし、卒業後大学に行ってから、自分のうちに向いていたモヤモヤした感情が、外に向けてポジティブに昇華していく感覚になったそうです。そしてこんなことを言っています。『悩みとかが解決に向かうほど苦しさが増すと思うのです。本当に解決したくって、そこの先に行きたいから苦しいわけで。だから、今の苦しみはその先に広がる景色が迫っているサインかもしれない、と思います。僕が音楽の解放力に出会えたのも、10代で、自分は何者なんだ、と苦しんだからです。悩みは決して無駄にはならない。』

苦しくても、泣いちゃだめだ、最後まで！という栗山さんのメッセージと苦しみは解決の前触れ、という藤巻さんの経験談を、3年間の高校生活を送るとともに長い人生を送る皆さんに伝えたくて今日のお話をしました。

長い夏休み。読書も含めた勉強を継続するとともに、「自分は何者？」なんてことも少し考えてみてくださいね。そして、また9月1日の2学期始業式で元気な姿を見せてください。